

I 組織の使命

病院局では管理部のもと、市立函館病院、市立函館恵山病院、市立函館南茅部病院が病院事業を、市立函館病院高等看護学院が看護師養成事業を運営します。

病院局のミッション（使命）は、
「地域住民の方々に最良の医療を提供する」ことです。

このため、各施設の経営健全化に努めるとともに、市立函館病院は、高度急性期・急性期医療を担い、道南圏の中核医療機関として救命救急センターをはじめ様々な役割を果たし、市立函館恵山病院と市立函館南茅部病院は、急性期や慢性期医療を担い、それぞれの地域において初期医療や救急医療などを提供する施設としての役割を果たします。

また、市立函館病院高等看護学院は、医療者としての素養を育み、専門的知識や技術を習得するとともに、温かい心を持つ看護師を社会に送り出します。

II 組織の基本方針

○ 管理部

- ・ 病院局長のもと、3病院事業と1看護師養成事業の健全な運営に努めます。

○ 市立函館病院

- ・ 道南圏域における救急医療、災害医療を支えます。
- ・ 地域の医療機関との連携を深め、地域医療の充実に努めます。
- ・ 高度・先進医療を担い、患者さん中心のチーム医療を提供します。
- ・ 地域医療を支える優れた医療人を育成します。
- ・ 公共の役割を担いつつ、健全な経営に努めます。

○ 市立函館恵山病院・市立函館南茅部病院

- ・ 安全な医療を目指します。
- ・ 高度医療機関と連携して地域医療の確保に努めます。
- ・ 保健・福祉と協働して地域住民の健康づくりに貢献します。

○ 市立函館病院高等看護学院

- ・ 看護師として必要な専門的知識や技術を習得させます。
- ・ 医療チームの一員を担えるよう調和の取れた人間形成を目指します。

Ⅲ 年度評価 総評

病院局においては、令和7年度(2025年度)も「地域住民の生活や地域の発展に不可欠なサービスの安定的な提供」という公営企業本来の役割を果たすため、組織の基本方針に沿って事業の実施に努めてまいりました。

所管する病院および高等看護学院では、それぞれ個別固有の課題を抱えていますが、地域医療の確保という役割を果たすことができたことから、年度目標を達成したものと考えております。

何れの施設も長い歴史の中で市民生活を支え続けており、これからもそのサービスを将来にわたって安定的に提供していくために、引き続き医療従事者の働きやすい環境の整備と、地域住民の安心安全な医療提供体制の堅持に積極的に取り組んでまいります。

区分	担当課	評価	評価の説明
<p>1 安全な医療の提供と地域医療への貢献</p>			
<p>(1) 地域の医療機関との連携を深め、地域医療の確保・充実を図るとともに、道南圏域における救急医療、災害医療を支えます。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師会をはじめ、保健所や地域の医療機関との連携をより一層深め、地域医療の充実・確保に努めます。 	<p>地域連携課 ほか</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市立函館病院は、地方・地域センター病院、および地域医療支援病院として、道南医療圏内の医療機関と連携し、医師等医療従事者の派遣事業、施設・設備の共同利用提供および地域の医療従事者の質向上を図る研修会を計画・実施することで、地域医療の充実と確保に努めた。 ・ 市立函館恵山病院および市立函館南茅部病院は、地域ケア会議（多業種参加型）に参加し、地域の医療ニーズの把握に努めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の高度・専門化が進み、複数の医療機関が機能を分担するなかで、他の医療機関と連携して診療を行うとともに、市立函館病院については、3次救急やがん患者に対応する体制を維持・確保してまいります。市立函館恵山病院および市立函館南茅部病院では、地域住民の健康維持に努めるとともに安心安全な医療を提供してまいります。 	<p>地域連携課 ほか</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市立函館病院は、紹介受診重点医療機関として地域の医療機関と機能を分担し、高度急性期医療機関の立場で診療にあたった。特に道南医療圏での2次および3次救急を担う立場から、地域の医療機関と連携し、重症患者用の病床確保のため、当院で受け入れた軽症救急患者を転院搬送する「救急患者連携搬送」事業を行い連携強化が図られたほか、がん患者に対しては、地域がん診療連携拠点病院として、専門医療の提供とともに患者・家族への支援を行った。 ・ 市立函館恵山病院および市立函館南茅部病院は、専門的な検査や治療が受けられるよう、市立函館病院を中心に市内の急性期病院との連携を図った。
<p>2 患者サービスの向上と職員が働きやすい環境づくり</p>			
<p>(1) 患者サービスの向上を図るほか、老朽化した施設設備の更新に努め、職員が働きやすい環境づくりを目指します。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市立函館病院では、診察までの待ち時間が少しでも快適になるよう、患者図書室「フォンテ」の拡充を図ります。 	<p>地域連携課 ほか</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者図書室「フォンテ」については、利用者からの意見を参考に令和8年3月2日にリニューアルオープンした。 ・ スペース拡大による図書室機能の拡充はもとより、休憩および飲食スペースを新たに設け、院内滞在の間の環境整備を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 働きやすい環境づくりを目指して職員の心理的安全性を高めます 	<p>庶務課ほか</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院局全体で心理的安全性を高めていくため、昨年度に引き続きハラスメント研修を実施した。

<ul style="list-style-type: none"> ・市立函館病院では、標準化された医療の提供を目的に、クリニカルパスの整備と推進を図ります。 市立函館恵山病院および市立函館南茅部病院では、急性期治療後の患者さんの生活の質の向上に努めます。 	<p>経営システム課ほか</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市立函館病院のクリニカルパス適用率は、2024年度53.3%より、2025年度は55.6%まで上昇した。さらに、パス分析による他院比較を行い標準的医療の推進を図った。 ・市立函館恵山病院では、急性期治療後も在宅が困難な患者さんや酸素投与・吸引など医療依存度が残る患者さんの受け入れを行った。 また、市立函館南茅部病院では、急性期治療後の地元患者を積極的に受け入れ、健康管理を実施した。
<ul style="list-style-type: none"> ・市立函館病院では、医師の働き方改革を推進するほか、業務の効率化を図るためタスクシフト・シェアについて検討を進めます。 市立函館恵山病院および市立函館南茅部病院では、働き方改革の推進や業務の効率化を推進します。 	<p>医局担当課ほか</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市立函館病院では、医師への面接指導の実施および就業上の措置を講じたほか、タスクシフト・シェアの可能性がある100項目のうち、実行可能業務については優先度を考慮しながら、32項目を多職種協働で完了し、医師の働き方改革の推進を図った。現在も68項目について対応を継続しており、今後も推進していく。 ・市立函館恵山病院および市立函館南茅部病院では、院内会議や委員会のメンバー、議事録作成等を見直し、業務の効率化を図り、職員の時間外勤務の縮減を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・医療DXの推進により、業務プロセスを改善し、医療の質および患者サービスの向上を図ります。 	<p>経営システム課ほか</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度は、検体搬送ロボット、自動麻酔記録システム、病棟スタッフへのインカム・ナースカート導入、動画視聴システムの導入を行い、業務プロセスを改善し、医療の質および患者サービスの向上を図った。
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した施設設備の計画的な更新を実施します。 	<p>施設管理課</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・函館市病院事業経営強化プランに計画した市立函館病院の免震装置の補修工事に着手し、また、老朽化した空調設備、高圧ケーブルの更新作業を実施した。

3 経営の健全化

(1) 各病院がそれぞれに求められる医療機能を果たしながら、そのサービスを将来にわたり継続して提供していくため、「函館市病院事業経営強化プラン」の適切な進行管理を実施します。

<ul style="list-style-type: none"> ・函館市病院事業経営強化プランの適切な執行管理を実施し、持続可能な地域医療提供体制の確保に努めます。 	<p>経理課ほか</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度決算に基づき、経営強化プランで示している数値目標等の集計、分析、自己点検・自己評価を行い、評価委員会を開催した。 ・評価委員からの意見等を踏まえ、紹介患者の積極的な受け入れ、診療材料費や委託料の見直しによる経費節減など目標達成に向けた取組を進めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・市立函館恵山病院、市立函館南茅部病院では、地域の医療ニーズに応えるほか、急性期病院等から入院患者を積極的に受け入れて、医療収支の改善に努めます。 	<p>経理課ほか</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市立函館恵山病院では、市立函館病院から急性期治療を終えた患者や、市内外の医療機関と連携を図り透析患者を受け入れるなど、患者の確保に努めた。 ・市立函館南茅部病院では、内視鏡検査等を実施し、急性期治療を必要とする患者を市立函館病院を中心とした市内の急性期病院へ紹介し、病状が安定した患者を受け入れるなど、患者数の確保に努めた。